投資環境見通し（2026年11月）

目次

◇投資戦略のポイント・・・・・・・・・・・・・・・P.1
◇内外経済 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.2
・日本経済
・米国経済
・欧州経済
◇各資産の投資環境見通し・・・・・・・・・・P.3
・前月の投資環境
・国内債券
・国内株式
・外国債券
・外国株式
・為替



明治安田アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）　第405号
一般社団法人資産運用業協会会員

投資戦略のポイント

①米国
FRBは利上げ姿勢ながら好景気の持続を重視

世界景気は概ね良好です。親イラン勢力がサウジアラビアを攻撃するなど、中東情勢を巡る緊張はこれまでの米国とイランの関係から拡大しています。原油価格の上昇は金利先高観を強め、巨額の借入れを行うAI（人工知能）インフラ企業の先行きに対する警戒感から、関連銘柄中心に株価が急落する場面がありました。ただし、景気は底堅く推移する中でも中央銀行は景気悪化を招く性急な追加利上げに慎重姿勢で、巨額投資するAI関連銘柄の中でも収益性・持続性を見極める選別物色の動きもあり株式相場は売り買いが交錯しながらも当面は変動率の高い状況が続きそうです。

米国景気は良好です。7～9月期の実質GDP成長率は、底堅い個人消費やAI関連の設備投資に牽引され、高い伸びとなりました。FRB（連邦準備制度理事会）は10月のFOMC（連邦公開市場委員会）で利上げを見送り、同議長は会見で前回9月会合での利上げに関して「AI企業の資金調達の困難化も含め、確かに金融は引き締まった」「痛みを一部（の経済主体）に及ぼしている」「だが十分とは言えない」と発言し、**追加利上げの可能性**を示しました。同時に、**好景気を長く持続させることの重要性も強調**し、「景気は力強さを増しているが、インフレ加速を招くほどの『景気過熱』ではない」との認識を示し、前回9月FOMC後に広がっていた「来年にかけて数回の利上げ」との観測を後退させる発言と受け止められました。9月まで上昇していた長期金利は、AI関連銘柄の株価下落を受けた投資家のリスク回避の動きから国債が選好され低下しました。

②欧州
ECBは性急な追加利上げに慎重

ユーロ圏では、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東紛争の拡大に伴うエネルギー価格上昇が経済活動の下押し要因となっています。フランスをはじめとして財政赤字が深刻な域内各国での長期金利上昇について、ECB（欧州中央銀行）総裁は「金利上昇で企業の資金調達に支障が出て、今は堅調な景気を冷やしかねない」と指摘しました。その後の10月理事会でECBは政策金利を据え置き、ECB総裁は会見で、エネルギー価格が基本シナリオの想定を上回っているとして「利上げを議論した」と認めつつも、エネルギー価格上昇が物価全般に波及する顕著な二次的な影響は出ていないとして、「基調的な物価は落ち着いている」と述べ、**性急な追加利上げに慎重な姿勢**を示しました。また、ECB総裁は任期満了を待たず来年2月に早期退任することを発表しました。次期執行部体制とその後の金融政策の姿勢が注目されます。

③新興国
中国：輸出は好調、内需は低迷

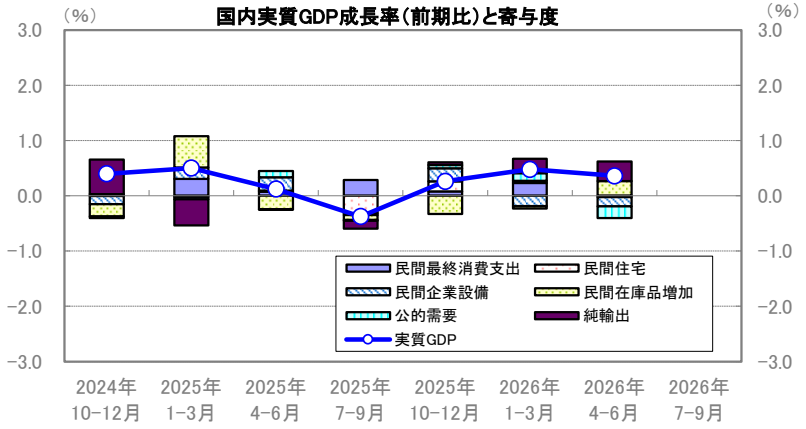
【中国】今年の貿易黒字は過去最高だった昨年を上回る勢いです。輸出の好調で7～9月期実質GDP成長率は前四半期から幾分持ち直しましたが、IMF（国際通貨基金）は内需の弱さを理由に、今年の実質GDP成長率予測を引き下げました。
【ブラジル】大統領選挙では現職大統領が決選投票を経て再選を果たしたことを受けて、金融市場では財政不安が再燃しました。9月消費者物価は中央銀行の物価目標の上限を上回ったこともあり、今後の利下げペースが注目されます。

④日本
日銀は機動的な利上げを表明

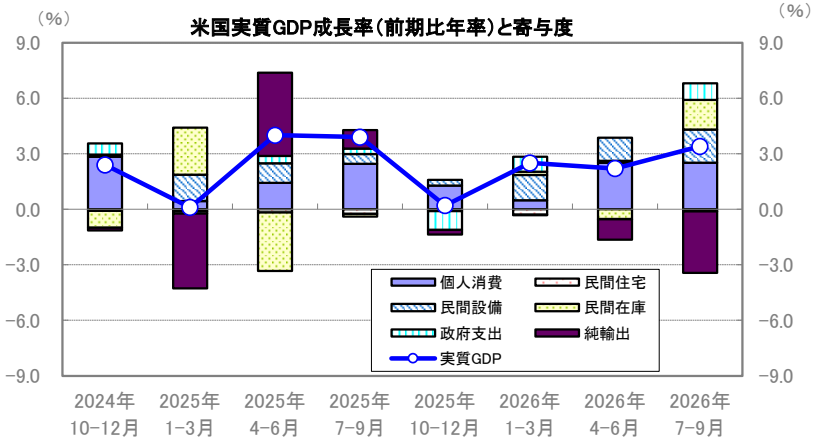
日本の景気は概ね良好です。日銀9月短観では大企業・製造業で企業景況感が、諸コスト高の販売価格転嫁による利益確保の動きを背景に、6期連続で改善し8年振りの水準となりました。日銀は10月会合で利上げを見送りましたが、**基調的な物価が目標の2%と「概ね整合的な水準」に到達した**との歴史的な判断を示し、日銀総裁は「今後は2%を超えないよう**機動的な利上げ**で金融緩和の度合いを減らし、中立金利へ引き上げていく」と述べました。ただし「米欧の利上げでAI企業の株価が下落する金融環境の変化には要注意」とも述べ、**慎重な一面**もみられました。日銀は同時に保有ETFの売却ペースの加速を決定しました。

内外経済

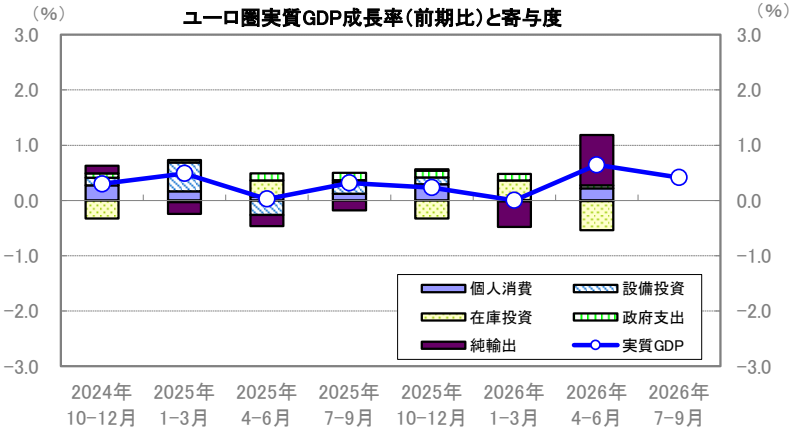
日本経済



米国経済



欧州経済



日本:
4～6月期の実質GDP成長率は前期比+0.4%(年率+1.4%)でした。

米国:
7～9月期の実質GDP成長率は前期比年率+3.4%でした。

欧州(ユーロ圏):
7～9月期の実質GDP成長率は前期比+0.4%でした。

*出所:Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

※ 当資料の最終ページに重要な注意事項を記載しておりますので、必ずご確認ください。

各資産の投資環境見通し

前月の投資環境（10月）

国内長期金利は低下

国内長期金利は、日銀が急激な金融引き締めを回避する姿勢を示し、政府が「リフレ政策」を否定し財政拡大に対する過度の懸念が後退する中、原油価格が上昇しインフレ懸念が広がったものの、AI関連企業による巨額投資に対する懸念が強まり、世界の株式相場が下落したことを受けた**投資家のリスク回避姿勢を背景に低下**しました。

国内株式相場は下落

国内株式相場は、日銀による追加利上げ観測が広がる中、AI関連企業の好決算ながらも巨額投資に対する懸念が強まったことに加えて、中東情勢の緊張を受けた原油価格上昇もあり、**軟調に推移**しました。

長期金利は米国、欧州（ドイツ）ともに低下

米国、欧州（ドイツ）：長期金利は、FRBおよびECBによる追加利上げ観測に加えて中東情勢の緊張から原油価格が上昇しインフレ懸念が広がったものの、AI関連企業による巨額投資に対する懸念が強まり、世界の株式相場が下落したことを受けた**投資家のリスク回避姿勢を背景に低下**しました。なお、フランスでは政治や財政に対する不安が拡大したことから、長期金利に対して上昇圧力が強まりました。

外国株式相場はAI企業に対する懸念が重し

米国：株式相場は長期金利の上昇一服を好感し、上昇して始まりました。その後はAI関連企業の好決算ながらも巨額投資に対する懸念が強まったことに加えて、中東情勢の緊張を受けた原油価格上昇が重しとなり**軟調に推移**しました。

欧州：株式相場はドイツ長期金利が低下基調となったことが支援材料となりました。ただし、AI関連企業の好決算ながらも巨額投資に対する懸念が強まったことに加えて、中東情勢の緊張を受けた原油価格上昇が重しとなり、**上昇幅は限定的**となりました。

《10月の市場動向》

	2026/10/30	2026/9/30	騰落率（幅）
債券利回り	前月末	前々月末	前々月末差
日本10年国債	2.78%	3.07%	▲0.28%
米国10年国債	4.93%	5.28%	▲0.36%
ドイツ10年国債	3.32%	3.59%	▲0.26%
英国10年国債	5.28%	5.42%	▲0.14%
豪10年国債	5.12%	5.35%	▲0.23%
ブラジル10年国債	15.25%	14.10%	+1.16%
南アフリカ10年国債	8.79%	9.02%	▲0.23%
株価指数	前月末	前々月末	前々月末比
日経平均株価	63,290.11	66,753.72	▲5.19%
TOPIX	3,965.07	4,108.65	▲3.49%
ダウ工業株30種平均	51,770.31	50,906.05	+1.70%
S&P500	7,580.07	7,651.54	▲0.93%
ナスダック指数	25,437.00	26,861.06	▲5.30%
FTSE100	10,729.78	10,606.00	+1.17%
DAX	25,818.21	25,199.19	+2.46%
ハンセン指数	23,294.42	24,613.27	▲5.36%
為替相場	前月末	前々月末	前々月末比
米国ドル/円	157.56	157.41	+0.10%
ユーロ/円	175.78	178.35	▲1.44%
英国ポンド/円	211.00	208.81	+1.05%
豪ドル/円	110.80	109.35	+1.32%
中国人民元/円	23.65	23.45	+0.88%
ブラジルレアル/円	28.98	30.43	▲4.76%
南アフリカランド/円	9.43	9.58	▲1.60%

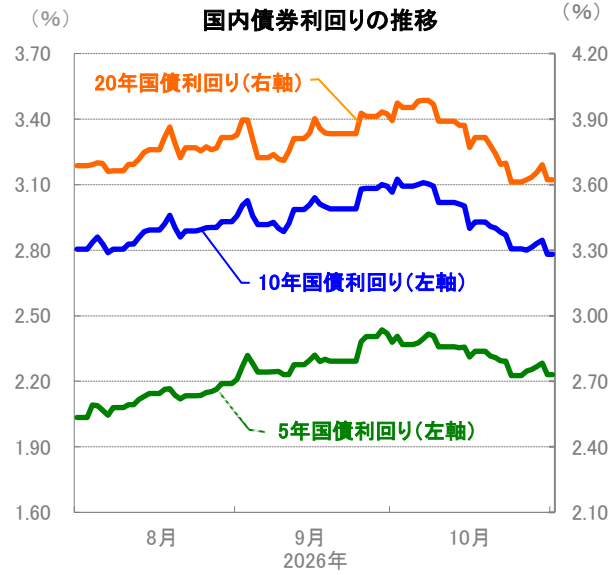
※出所：Bloomberg
前月、前々月とも、月末が休日となる市場については直前取引日の水準を記載しています。

各資産の投資環境見通し

✔ 国内債券

国内長期金利はレンジ内で推移

日銀は10月の金融政策決定会合で政策金利の据え置きを決定し、基調的な物価上昇率が目標の2%と「概ね整合的な水準」と表明するとともに、物価が上振れしないように利上げを進める姿勢を示しました。政府が「リフレ政策」を否定するコメント発信以降、国内長期金利は低下していますが、消費減税の財源が明示されておらず、また中東情勢の緊張を受けた原油高もあり、**レンジ内で推移**するとみています。

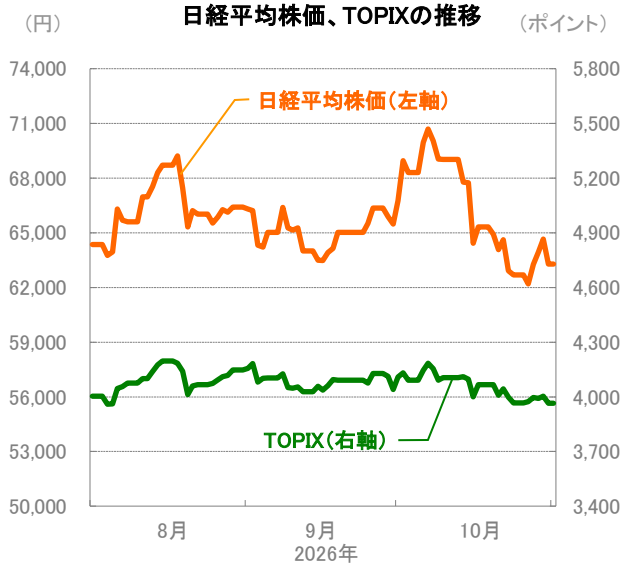


*出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

✔ 国内株式

国内株式相場は底堅く推移

企業業績についてはAI関連企業を中心として、幅広い業種で比較的高い増益率を維持しています。
主要国で利上げが広がる中、原油価格の上昇、AI関連銘柄の競争激化に加えて一部企業の信用懸念もあり、国内株式相場は変動率が高まる場面が予想されます。しかし、好調な企業業績を背景に健全な循環物色の展開が続くとみられることから、次第に**底堅く推移**するとみています。



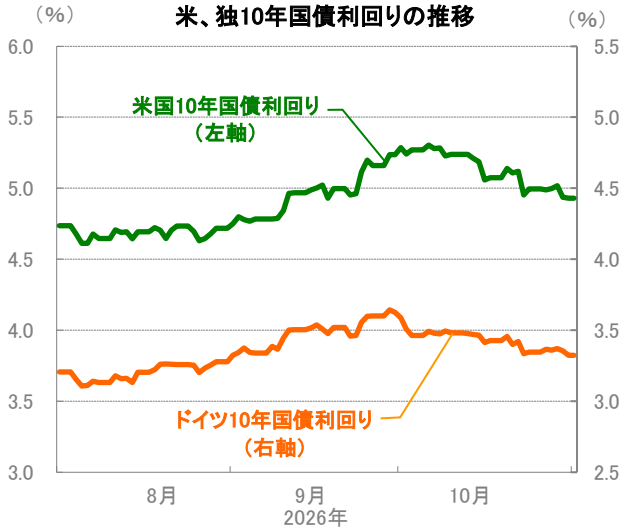
*出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

各資産の投資環境見通し

✔ 外国債券

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともにレンジ内で推移

・**米国**：長期金利は、景気が底堅く推移する中、中東情勢の緊張を受けた原油高が上昇圧力として残りますが、投資家の予想する政策金利の最終到達水準はすでに相当程度切り上がったとみられることから、当面は**レンジ内で推移**するとみています。
・**欧州**：ECBが利上げを継続するとの見方が広がる中、中東情勢の緊張を受けた原油高はドイツ長期金利の上昇圧力とみられますが、景気に対する影響も懸念されることから、当面は米国長期金利と同様に**レンジ内で推移**するとみています。

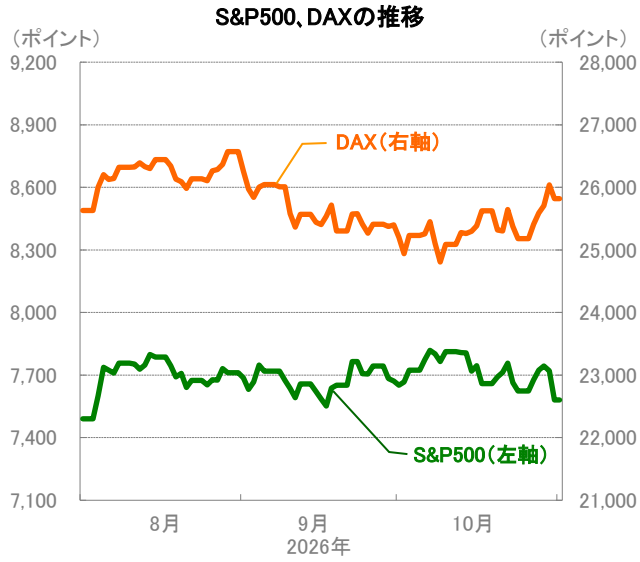


*出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

✔ 外国株式

外国株式相場は、米国、欧州ともに底堅く推移

企業業績については引き続き、AI関連企業を中心に全般的に高い増益率を維持するとみています。
米国株式相場は、FRBによる追加利上げ観測が重しになるとみられますが、景気が底堅く推移し企業業績が全般的に好調なことから、中間選挙を前に変動率が高くなる可能性はあるものの、健全な循環物色の展開は続き、次第に**底堅く推移**するとみています。
欧州株式相場は、ECBによる追加利上げ観測に加え、フランスにおける政治および財政に対する不安の域内諸国への拡大が重しとみられますが、域内各国の財政拡張政策を背景に米国市場と同様に循環物色の動きを伴いつつ**底堅く推移**するとみています。



*出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

各資産の投資環境見通し

✔ 為替

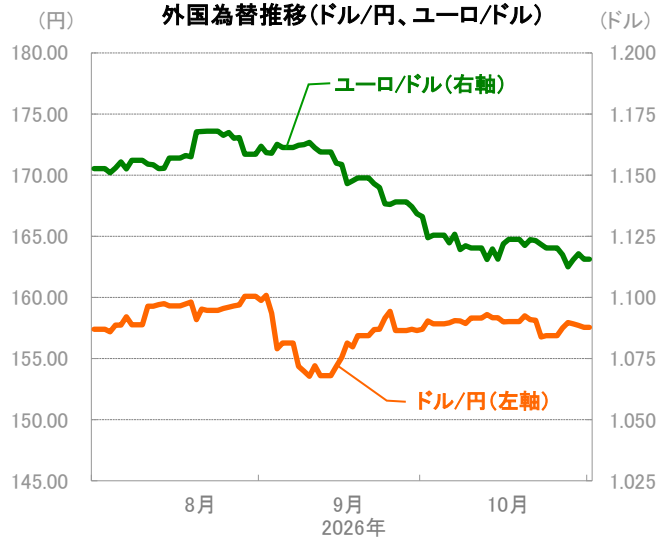
米ドル、ユーロはともに円に対してレンジ内での動き

・米ドル：中東情勢の緊張が続く中、FRBによる追加利上げ観測もあり、ドル高圧力は残るとみられます。ただし、為替レートの水準次第では日米通貨当局による円買い為替介入に対する警戒感も広がりやすく、**ドルは円に対してレンジ内での動きになる**とみています。

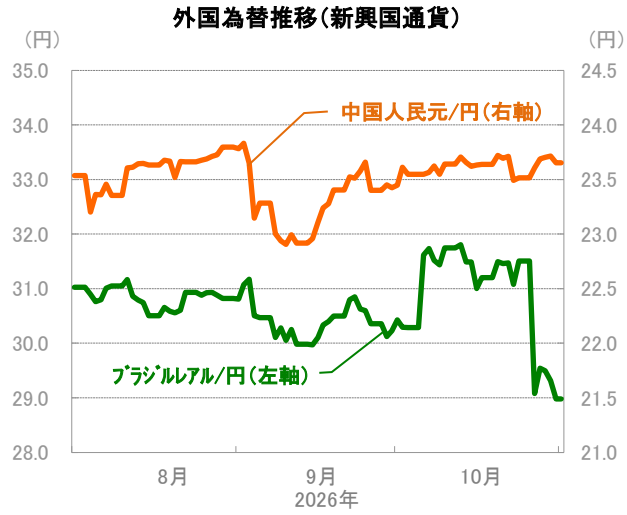
・ユーロ：フランスの政治および財政に対する不安がユーロ安圧力とみられますが、FRBによる追加利上げ観測を背景とした円安ドル高圧力に支えられる形で、**ユーロは円に対してレンジ内での動きになる**とみています。

・中国人民元：7～9月期の実質GDP成長率（前年比）は堅調な外需に支えられ、前期を上回りました。一方で内需の低迷が続く中、引き続き政府が2026年の成長率目標とする4.5%～5.0%の達成に向けた今後の政策が注目されます。

・ブラジルレアル：大統領選挙では第一回投票で劣勢に立った現職候補者が決選投票で逆転勝利した直後には、財政悪化懸念が再燃し急落しました。恒常的な課題とされている財政健全化に向けた取り組みや今後の外交・通商政策が注目されます。



*出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成



*出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社（以下「当社」という）がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関して最終的な判断を下すのはお客さまであり、当社は、法律、財務、会計等に関してお客さまにアドバイスする立場にはありません。
- 当資料に掲載されている過去の実績・データ等は将来の実績・データ等を示すものではなく、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- なお、当資料に記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属いたします。したがいまして、当社の書面による同意なく、その全部または一部を複製しまたその他の方法で配布することはご遠慮ください。
- 資料中で用いているインデックスおよび発表元は以下のとおりです。記載したインデックスに関する著作権等の一切の権利は当該インデックスの発表元に帰属します。

  TOPIX：株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社　日経平均株価：株式会社日本経済新聞社　ダウ工業株30種平均：　S&P Dow Jones Indices LLC　S&P500：スタンダード・アンド・プアーズ ファイナンシャル サービシーズエル エル シー　NASDAQ：The NASDAQ OMX Group, Inc.　DAX：ドイツ証券取引所　FTSE100：FTSE社　ハンセン指数：Hang Seng Indexes Company Limited